

テーマ「農業と福祉の、相性のよい関係性」

/株式会社 たくみファーム

優良事例賞

田園資源×福祉



障がい者の受け入れに配慮した農作業環境を目指し、国際的な農産物の安全管理規格であるグローバルGAP認証を取得した。生産現場はハウス内の温度が28℃を超えると自動で熱を逃がす空動扇や空調機の整備、センサーで収集した各種データをクラウド上で管理するシステム、通常の1.5倍の幅を取った通路、頭上の障害物の注意標識設置など、障がい者の働きやすさを考慮した上で通年で安定した生産量が確保できる環境が整っている。

動機・思い

農業をやっているから障がい者を雇用するという流れではなく、障がい者の雇用を受け入れるためにハウスを設計した。グローバルGAP認証についてもヒット商品を出すために取得したのではなく、障がい者が働きやすい環境づくりを考え作業環境を整備した結果、それが認証とマッチしていた。

理念・コンセプト

生産に加えて、規格外品を活用した加工食品事業も展開し、障がい者の雇用の場の拡大を図りながら循環型農業を目指したい。

これまでの取組み

平成27年8月に国家戦略特区の規制緩和を活用し農福連携による営農を開始。トマトのハウス栽培やイチジクの栽培を行い自社で生産したミニトマト「天使の唇」は野菜ソムリエサミット(2016年7月)で金賞を受賞した。天使の唇やイチジクの規格外品を活用した加工品の商品化も始め、循環型の事業拡大に取り組んでいる。

評価ポイント

グローバルGAP認証取得やブランド化、ICTの導入など、障がい者の労働や賃金増を考慮しながら取り組んでおり、農福連携の一步先を行く事例として新たなビジネスモデルとなり得る。